

情報連絡員報告総括表（令和4年3月分）

三重県中小企業団体中央会  
 連絡員総数 40名  
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況						
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化				
製 造 業	食料品	1	2	1	1	3		1	3		1	3			1	3		3	1		3	1		4			1	3				
	繊維工業		2	1		2	1	2	1			3			2	1		3			3			2	1		1	2				
	木材・木製品	1					1	1			1			1				1		1				1		1						
	紙・紙加工品			2		2			2			1	1			2		2				2		2			1	1				
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1					
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品		3			3			3			3			2	1		3			3			3			2	1				
	鉄鋼・金属	1				1			1			1			1			1			1		1			1						
	一般機器	1		2	2	1		2	1			2	1	1		2		3			2	1		1	2	1		2				
	電気機器			1			1			1		1				1			1			1		1				1				
	輸送機器			1			1		1				1			1			1			1			1		1					
その他																																
	小計	4	8	8	3	13	4	6	13	1	2	15	3	2	7	11		17	3	1	13	6	1	15	4	3	7	10				
非 製 造 業	卸売業		2			2		2				2			1	1		2		X					2			1	1			
	小売業	1	2	3		6		4	2			3	3		2	4		2	4						6			2	4			
	商店街		1				1	1				1				1			1							1			1			
	サービス業	1	4		X	X	X		5			5			4	1		4	1						5			3	2			
	建設業		2	2					1	3			2	2		2	2		3		1					4			3	1		
	運輸業	1										1			1			1					1					1			1	
	その他		1									1			1			1				1						1			1	
	小計	3	12	5		8	1	8	12			15	5		11	9		12	8					19	1		11	9				
	合計	7	20	13	3	21	5	14	25	1	2	30	8	2	18	20		29	11	1	13	6	1	34	5	3	18	19				

## 最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和3年3月～令和4年3月)

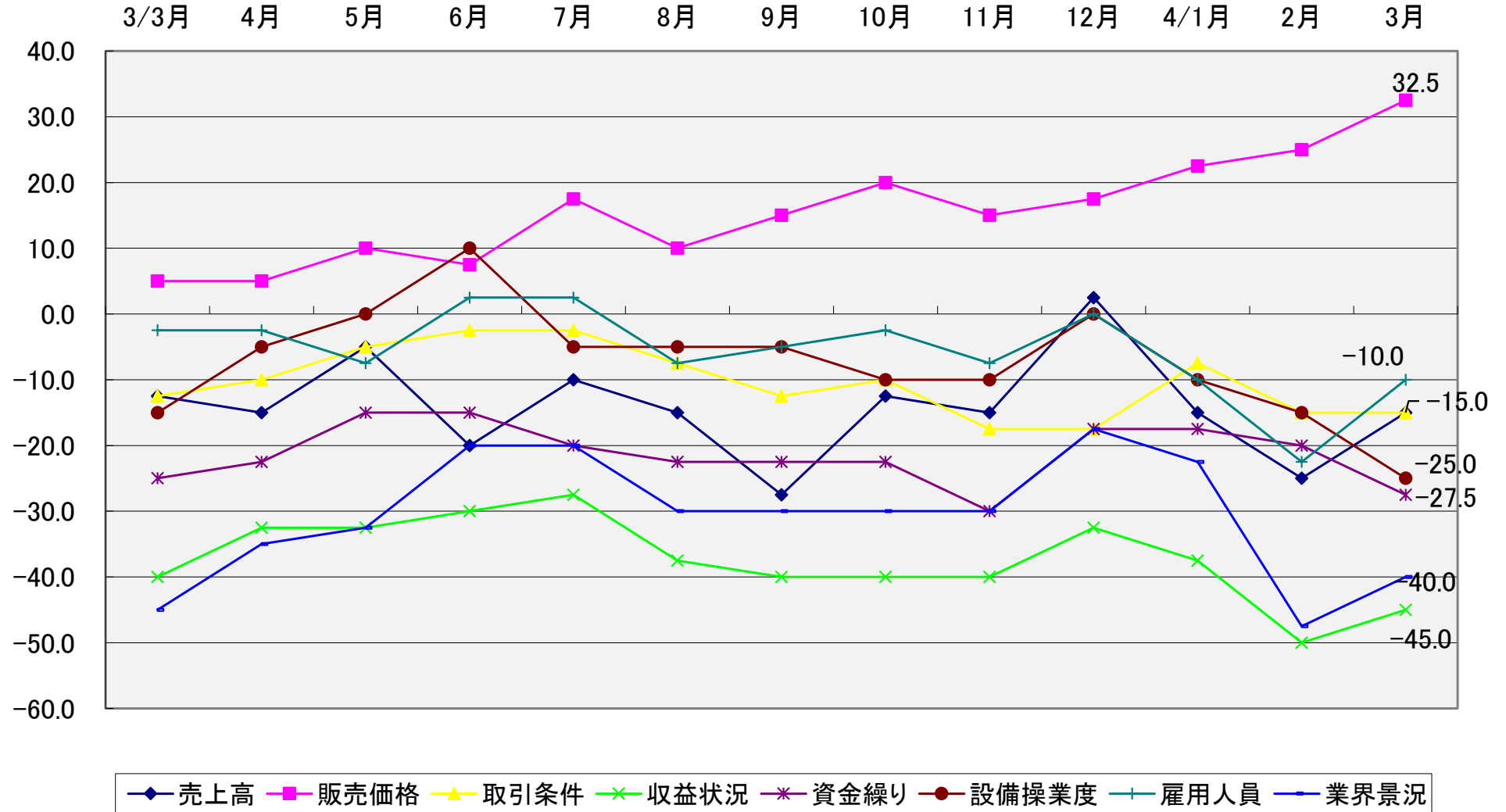
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	3/3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	4/1月	2月	3月	増減
売上高	-12.5	-15.0	-5.0	-20.0	-10.0	-15.0	-27.5	-12.5	-15.0	2.5	-15.0	-25.0	-15.0	10.0
販売価格	5.0	5.0	10.0	7.5	17.5	10.0	15.0	20.0	15.0	17.5	22.5	25.0	32.5	7.5
取引条件	-12.5	-10.0	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-12.5	-10.0	-17.5	-17.5	-7.5	-15.0	-15.0	0.0
収益状況	-40.0	-32.5	-32.5	-30.0	-27.5	-37.5	-40.0	-40.0	-40.0	-32.5	-37.5	-50.0	-45.0	5.0
資金繰り	-25.0	-22.5	-15.0	-15.0	-20.0	-22.5	-22.5	-22.5	-30.0	-17.5	-17.5	-20.0	-27.5	-7.5
設備操業度	-15.0	-5.0	0.0	10.0	-5.0	-5.0	-5.0	-10.0	-10.0	0.0	-10.0	-15.0	-25.0	-10.0
雇用人員	-2.5	-2.5	-7.5	2.5	2.5	-7.5	-5.0	-2.5	-7.5	0.0	-10.0	-22.5	-10.0	12.5
業界景況	-45.0	-35.0	-32.5	-20.0	-20.0	-30.0	-30.0	-30.0	-30.0	-17.5	-22.5	-47.5	-40.0	7.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする  
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

### 最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和4年3月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足は続いている。販売状況においても、コロナウイルスの影響により、お土産物の漬物の販売及び外食産業での需要の減少が続いてきたが、ここに来てやや回復の兆しがみられる。また、今年も全日本漬物協同組合連合会主催の漬物グランプリ2022が東京ビッグサイトで4月27日から29日まで開催される。県内からも数件が応募の予定である。即売会での漬物の提供要請があり、三役より提供した。
	醤油味噌	4月から政府の輸入小麦の価格改訂(17.3%値上げ)が行われる。昨年10月に19%の値上げが行われ、2期連続の大幅値上げとなった。醤油、味噌業界も昨年の価格改訂に合わせて、値上げ実施を決定したが、大手メーカーの値上げが先行し、中小メーカーはこれから値上げを始める状況である。ロシアのウクライナ侵攻により、エネルギー価格、穀物相場の上昇、また円安進行により、業界や事業者にとって厳しい経営環境が続いている。
	豆腐	燃料、原材料、包装資材が値上がりしてきており、各自商品の値上げを取引先に申請している。
	製麺	昨年に続き、小麦の価格が4月より値上がりし、得意先は承諾していくようである。この先、ウクライナ問題より、今年の秋には更に値上げとなるようである、厳しい状況である。また、原油をはじめ、あらゆる商品の値上げが続く、先の見えない事ばかりである。国としてもこの状況を把握し、対策を取ってもらいたい。
繊維工業	衣料縫製	ようやく一部の外国人技能実習生が入国してきた。各国によりビザの申請が遅れているので、確認できていない送出国もある。外国人技能実習生の日でも早い入国を待っている。人数確保が一番の課題である。
木材・木製品	木材	ウクライナ情勢により、欧州内外で木材不足への懸念から日本への影響が憂慮されている。昨年来の住宅資材全般の品薄状態は続き、前月比ではやや弱含み傾向であるが、前年同月比では原木、製品共に高値維持で推移している。
紙・紙加工品	紙器段ボール	大手製紙メーカーから2月に段ボール原紙の10%値上げのアナウンスがあった。各製紙メーカー、段ボールメーカーの値上げに対する温度差はあるものの、徐々に我々に対する段ボールシート値上げの活動が強まってきた。4月が値上げ交渉のピークになりそうである。仕事量は自動車関連を筆頭に昨年対比で若干少ないが加工食品向けがまずまずの動きを示した。
	古紙	4月1日投稿締め切りのため集計重量傾向となるが、3月期の仕入れ量は前年比で、段ボール・約96%、新聞、チラシ・約95%、雑誌・雑がみを合わせて約98%と感じられる。2月から段ボール原紙の値上げ交渉を始められた板紙製造会社では、やはり4月以降の実質値上げとなりそうである。具体例や詳細は各企業間のため分らない。原紙生産は各社ほぼフル操業に近いようである原料古紙の調達が未達の所もありそうである。対ドル円の為替が一時125円を付け日銀想定を約10円上回り、前月比0.5~2円程度である。金属等のスクラップ等も小麦や原油や人件費等も値上がりしてインフレとなっているが、中小零細企業の御取引価格には厳しいコストアップとなっている。アフターコロナと言う事で考え方を切り替えて乗り切る努力をしていくつもりである。古紙の持ち去り行為や無人古紙回収所のゴミの不法投棄等はあるが、比重の重い金属スクラップ等の高騰で金属類の持ち去りにシフトしているようである。
印刷	印刷	年度末の繁忙期で、需要は他の月と比べて格段に増加した。しかしながら、官公庁をはじめ多くの印刷物は、年度内納品厳守のものが多く、さらに昨年同様コロナ禍による需要の減少もあり、新年度の始まりも厳しい業況である。
窯業・土石製品	伊賀焼	緩やかに注文数、来客数は増加してきているように感じる。しかし、まだまだ注文数や来客数は以前のように戻っていない状況である。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産額は2月とほぼ同様であった。自動車関連部品は増産されるとの観測であったが、半導体不足、部品の調達不足が影響し若干の減少であった。建築関連部品、ガス関連部品は横ばいの状態であった。半導体関連部品は増加傾向が続いている。コロナの水際対応が緩和されたが、技能実習生の入国は順番待ちの状況、原油価格の高騰、原材料の高騰があり、顧客への価格改定交渉を実施中である。
一般機器	四日市	急激な円安、和解の見込めない戦争激化等の要因で、経済環境は悪化するばかりである。諸物価の高騰で購買意欲は企業も個人も減退するばかりである。
	津市	銅材料の入手は先月と同様に厳しい状況が続いている。2月よりは受注は増えたが、東北地方で地震があったため、4月以降で受注がどうなるか注意する必要がある。トヨタのかんばん方式についても生産は元に戻らず、低迷が続いている。材料単価の上昇は売上単価に反映しやすいが、光熱費の上昇は価格に転嫁しにくいいため、中小企業にとっては悪影響となっている。

報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和4年3月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	伊勢	価格が上昇し収益は改善してきているが、注文しても入荷しない状態が続いている。部品が揃わないので仕掛品は増え、完成品となって出荷できず在庫は増えている。ロシアの戦争が原油価格の更なる上昇となり、原油価格の上昇と半導体不足が物品の調達に悪影響を及ぼしている。
	電気機器 鳥羽	期末に受注増加を期待してしたが、急激な動きはなく、例年より10～5%ダウンの状況で推移した。主材料、副資材は次々に値上げとなり、経営を圧迫しかけている。
	輸送機器 鈴鹿	サプライチェーンからの供給の混乱により各自動車メーカーもバックオーダーに対してなかなか挽回生産できない状況が続いており、3月の実績も予定していた計画に対して減産することになった。4月以降もまだしばらくは同じような状況が続くことが予測される。
非製造業	青果	野菜前半：気温が上がり、出荷が増えた品目が多く、全体的に荷動きも回復している。特にきゅうり、ブロッコリーが値下がりし、トマトは日照時間が伸びて生育が進み、甘味・酸味も強まり美味しくなっている。新玉葱は、静岡県産、愛知産の生育が遅れ、入荷が少なく高値である。 野菜後半：気温が上がったため、生育が進み果菜類を中心に値下がりし、トマトも入荷が増加している。ミニトマトも安値が続いている。地場産のほうれん草もお買い得である。徳島産の人参、高知産のピーマン、鹿児島産のじゃがいもは安定して入荷している。また、新玉葱の入荷も増えてきた。 果物前半：イチゴは県内産が中心で、各品種の数も増えて入荷も多くなり、値下がりが続いている。中晩柑のデコポン、せとか、清見以外にも種類が多く、順調に入荷している。 果物後半：イチゴは県内産の量が多くなり安値が続き、今がお買い得である。美味しいデコポンは値上がりしてきた。県内産の甘夏も順調に入荷しており、これから美味しい時期を迎える。
	自転車	年間を通し、3月は春需の通学車販売で一番動きが多くなる季節に今年の大きな流れとしてユーザーはかなり量販店へ流れた感じがする。各店からメーカーへの発注量も昨年比のマイナス30%以上を示した。価格は上昇したものの売上高は大きく落ち込み、かつ商品は中国から入荷のため、海上運送費（原油価格高騰、コンテナ不足）、為替変動による製品コストの大幅な値上げとなり、再度価格改定（10～15%上昇）となっている。小売店として、早急な商品を含む工賃変更をしなければならぬ状況である。
	小売業 電器	原油価格の高騰やウクライナ、ロシアの影響による経済的不安定さもまだまだ続いており、商品の品薄さや仕入れ価格の高騰が収まらない状況である。年度末の需要が多少あったとはいえ、売れ行きは低飛行を続けている。更に年度明けから各メーカーや卸業者から仕入れ価格の値上げが発表されており、今後も不安が続く。あとはまん延防止等重点措置が解除になり、人の外出度合いが多くなったことから購買意欲が起きてくれるのを期待している。
	石油	ガソリン情勢については、政府は高騰するガソリン価格の抑制のために1L当たり上限25円を石油元売り会社に支払う補助事業を、4月以降の新年度も継続する方針を固めたようである。事業期間は3月末までであったが、ロシアによるウクライナ侵攻に伴うエネルギー価格の高止まりが続く可能性が高いと判断した模様である。予算は2021年度と2022年度の予備費から支出する方針らしい。この事業は1月下旬に5円でスタートしたが、3月10日に上限が25円に引き上げられ、17日に25円での補助金が始まったが、その後もガソリン価格の高騰は収まっていない。自民・公明と国民民主の3党は、ガソリン税を一部減税する「トリガー条項」の発動を検討しているが結論が出るまでには時間がかかる模様である。当面は補助事業を継続するらしい。いずれにしても、早くガソリン価格が安定することを期待する。
	スポーツ	3月という月は当組合員にとっては確実な売上を確保する大事な月である。ここに来て、コロナの感染者数は減少していないが、色々な組織が動き出したように感じる。スポーツ用品の業界も大会の開催が増えてきたので、いくらか忙しくなってきたようである。3月末から4月初めにかけて、中学校の入学式等があり、新入生の体操服、シューズの販売があり、これらを取り扱っている組合員の店舗では、多忙である。
サービス業	商店街 熊野市	商店街にて久しぶりに開催された朝市イベントは、感染予防を徹底しながら熊野の養殖まぐろを中心にした関連イベントを多数揃えて開催された。飲食関連の出店舗は、どの店舗も早い時間帯に売り切れる等、好評であった。来場者は久しぶりに開催されてイベントについて、心待ちにしていたといった声も多く聞かれた。また今後は国の指針が緩和される形での感染対策を期待する声も業者間からもあったようだ。
	旅館	まん延防止等重点措置は愛知県、岐阜県より早く解除されたため、少しは明るさが戻ったようであったが、全体を押し上げるような力にはならなかった。春休みの期間中の週末は、満館になっていた施設も多かったようであるが、平日は閑散とした日が続いており、昨年より少し多かった程度であり、令和元年同月比の約60%であった。
	測量	官庁からの発注量は例年並みである。新入社員の確保や新たに新機材を導入する事には、先行きの見えない業種だけに難しい。

報告者名  
報告年月

三重県中小企業団体中央会  
令和4年3月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	警備	例年通り、3月度は年度末で受注も順調にあり良かったが、令和4年度はコロナの影響がまだまだ残り、イベント等の中止で売上高は伸びそうもなく、懸念している。
建設業	総合工事業	令和3年度の三重県内建設企業の公共工事の受注量は概ね昨年並みであった。令和3年度工事が完成時期を迎えている事及び令和4年度の国家予算が今年度内に成立した事から、早期の工事発注を期待している。令和4年度の公共工事設計労務単価は、10年連続の増加となったが、工事費に占める労務費の増加となり、利益率の減少となる恐れがあり、適正な利益確保の制度化が期待される。
	内装工事業	3月は前年同月比でマイナスとなった。年度末でかけこみ需要がありそうであったが、昨年度同様の結果となった。
	水道工事業 (亀山)	建設資材等の価格が全体的に上昇している。また入手困難で、先行きがわからない状況となっている。引き合いがあっても工期や納期が不明でこの先が本当に不透明である。
運輸業	トラック	軽油価格はロシアのウクライナ侵攻により、先月より高騰しており、更に運送事業者の経営を圧迫している。電子・デバイス部門は順調に増加しており、関連する輸送も好調に推移している。自動車関連については半導体不足の影響で、ホンダが減少となったが、トヨタ自動車は主力車種の新型車投入で増加した事から、それぞれのメーカーによって輸送も明暗を分けた。スーパー小売関連は微増であるが、増加したため、関連する輸送も堅調に推移した。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	コロナ禍で毎月開催の会議開催ができていないので、今月は開催し各組合員の状況を把握していく。鈴木英敬国会議員が全国製麺協同組合の農水担当議員として、事務所に来てもらえた事はありがたい事である。
一般機器	四日市	組合員同志の情報交換、助け合いの心で苦境を打破していかなければならない。国の抜本的な支援対策を願う。
小売業	スポーツ	なかなか実現しないが、少額随意契約の活用と適用限度額の大幅な引き上げを是非今年度は実現させてもらいたい。
サービス業	旅館	全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会が令和4年3月に組合員に対して行ったアンケート「現在の状況が続いた時、経営を何ヶ月事業継続できるか」という問いに対して、約8割が「1年未満」と回答した。このような業界の現状を広く訴えるとともに救済措置を要望していかなければならない。もともと借入金の多い業界であるため、金融支援が必要不可欠で、「ゼロ担保、ゼロ利息の延長」、「借入金額 (債権) の一定割合放棄」等を検討してほしい。
	測量	後継人を育てたい。 中小企業に対する三重県からの発注件数を増やしてほしい。